

## 出荷初日に検品作業

### 三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA伊勢いちご部会は11月上旬、イチゴの出荷を始めた。初日には同JA職員が1パックずつ丁寧に検品作業を行った。クリスマス需要に向けて生産者間の意識統一を図るため、24日には目ざろえ会を開く。

同JAの担当者は「本年度産は夏の高温の影響をやや受けたが、順調に生育した。糖度と酸味のバランスが良いおいしいイチゴに仕上がっている」と話している。

同部会では、部会員84人が約13畝で「章姫」「かおり野」「紅ほっぺ」「レッドパール」などを栽培している。出荷のピークは12月中旬で、県内外市場へ合わせて約13



出荷前のイチゴを検品する  
同JA職員

0万個の出荷を見込む。

また、同部会はいちごを1段詰めにする「平パック」での出荷も行っている。1段階詰めにすることで、果実がすれるのを防ぎ、傷が付きにくくなることから、贈答用需要の拡大も期待できる。